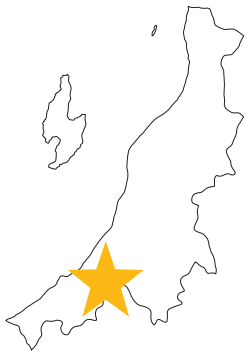


ボイス～農で輪・話・和～



半歩ずつ…！

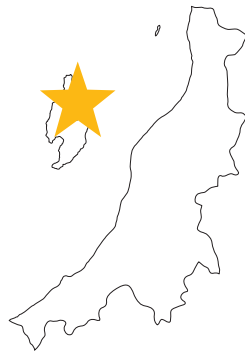
指導農業士（平成27年度認定）

なかむら かずひこ
中村 和彦（上越市）

私が地元に戻り、親の反対を押し切って農業を始め、早18年が過ぎました。

当時は10軒ほどあった我が集落の農家は、今では我が家1軒となってしまいました。農地を守るために始めた圃場整備が今年ようやく終わります。中山間地における耕作放棄、鳥獣被害、集落を取り巻く状況は全く先が見えません。そんな中、新たな希望は移住者かもしれません。田舎の良さを認識して移住を考える人が増えてきているように感じています。しかし、5年以上人が住まなくなった家は簡単に住める環境がありません。空き家はあっても、移住したい人が居ても、そう簡単に実現しないのが実情です。

しかし、地域を愛する仲間達と移住を受け入れる「田舎体験ハウス」の整備や、交流イベント等を行うことにより、少しずつ問題が解決されていきます。一朝一夕にはいきませんが、半歩ずつ進んでいるような気がします。いつか10歩100歩と進み、次の世代に残せる形となると思い込んで農業を楽しんでいます。



やるからには楽しまなくちゃ！

佐渡青年農業士会員（県農業士会理事）

もりやま たもつ
盛山 保（佐渡市）

私の住んでいる佐渡市西三川にある笹川集落はその昔、砂金を多く産出した地域として知られており、現在、県と佐渡市が取り組んでいる、世界文化遺産登録における重要構成要素の一つになっています。

笹川は30戸ほどの集落で、主な産業は農業です。農家戸数は14戸で専業農家は私のみです。この地域は、中山間地で決してほ場条件が良いとは言えませんが、寒暖差のある気候や、雪解け後の湧き水を利用し、5割減々栽培を実践し、人と自然にやさしい農法で米作りをしています。

また、農業と平行し取り組んでいるものの一つに、「笹川の景観を守る会」の活動があります。県内初の国の「重要文化的景観地域」に選定されたことを機に、先進地視察をはじめ、案内板の設置・維持管理、ボランティアガイド等の集落の活性化のためのイベント等を企画運営しています。

現在、県農業士会の理事を務めていて、県内の同じ若手農業者との「ご縁」の中、楽しく活動をしています。

農業情勢の厳しい世の中ではありますが、やるからには自らが楽しみ、安全安心をモットーに次世代につながる農業経営者でありたいと思っています！